



## 近頃話題の 「モンテッソーリ教育」

この記事の「筆者紹介」欄にあるように、私は現在の趣味の一つを「子育て」としており、孫のような年齢の子供を育てています。一番下の子は現在4歳（双子男子）です。その他、YouTubeなどで観戦するだけの状態ですが、「将棋」も趣味の一つと言ってよいです。この「子育て」と「将棋」のコンビネーションで最近気になる話題があります。それは、中学生で将棋のプロ棋士となった藤井聡太さんです。

藤井さんは、プロ棋士の歴代最年少記録を樹立したのみならず、プロになって即、歴代最多連勝記録も塗り替えてしまいました。子を持つ親として、彼がどのような教育を受けてきたのかが当然に気になります。小さい頃よく遊んだおもちゃから始まって、通っている学校の校風や入試方法、親御さんの躰法やら家訓などの「天才のつくり方」的な話題の中の一つに、彼が「モンテッソーリ教育」を受けていた、というのがありました。藤井さんが通っていた幼稚園が「モンテッソーリ教育」だったのです。

モンテッソーリ教育は、イタリアの医学博士・教育家マリア・モンテッソーリが考案した教育方法です。1907年、彼女はローマで低所得層の子供を対象に 保育施設「子どもの家」を開きます。そこで子供たちの観察と教育実践を繰り返すうち、「子どもは、自らを成長・発達させる力をもって生まれてくる。大人（親や教師）は、その要求を汲み取り、自由を保障し、子どもたちの自発的な活動を

援助する存在に徹しなければならない」（日本モンテッソーリ総合教育研究所ウェブサイトより）という考え方に達し、それを基本にした教育法をつくりあげたのです。

このモンテッソーリ教育を我が家の3人の子供全員が受けています！モンテッソーリ教育を受けさせること自体は米国では特殊なことではないのですが、日本ではかなり珍しいようですし、私の実体験に基づく米国でのモンテッソーリ教育を少し紹介します。私の観察がどれほど一般的なのかはわかりませんが…

教室は「日常生活」「感覚」「言語」「算数」と教育内容別にコーナー分けされています。そこで子供達はそれぞれ異なった自分のやりたいことを自分で決めます。時間割はなく、子供はその作業を好きなだけ続けます。先生は道具の使い方を教えたり、手助けをしたりするだけ。生徒は授業を受けるのではなく、そうかといって好き勝手に遊んでいるわけでもなく、やりたい作業をやっているような状態なのです。

たとえば「日常生活」コーナーでは、洗濯板を使ってハンカチなどを手洗いしたり掃除をしたりします。「感覚」コーナーでは、円錐や三角柱などの模型を触って名前を覚えたり、組み合わせで違う形を作ったりします。「文化」コーナーでは世界地図パズルをして色々な国の事情を勉強します。「言語」コーナーでは紙やすりのようなザラザラした特殊



な紙に表示されたアルファベットを、「書いて」ではなく「触って」覚えます。

こうした作業は果たして面白いのか？と大人の感覚では思えるのですが、学校で参観していると、子供たちは目を輝かせてやっています。子供用に作られた教材は様々な工夫がされており、集中力が自然につくよううまくできています。現在、私の双子は4歳ですからまだたいしたことはできませんが、年齢が上がるに従ってもっと複雑なことをするようになります。

日本の一般的な幼児教育法と最も違うのは、生徒が先生の方を見て先生からの指示に従って行うことがあまりないという点でしょう。日本では、みんなでやる行事や授業がいくつもあって、先生のリードの下に芝居や行進の練習をしたりします。そういうものがモンテッソーリ教育にはありません。

しかし、協調性や社会性を養う機会はたくさんあるようです。クラスは3～6歳が一緒の異年齢混合です。ランチ時にはテーブルセッティングから配膳、片付けをみんなで行います。クラス全員で協力しあってマフィンやクッキーを焼いて食べることも重要なカリキュラムのひとつです。

モンテッソーリ教育が藤井さんの才能の開

花にどれだけ寄与したのかはよくわかりません。藤井さんより前の世代の谷川、羽生といった将棋名人がモンテッソーリ教育を受けたという話は聞きませんし、もともと天才の藤井さんが行った幼稚園がたまたまモンテッソーリだったということに過ぎないのかもしれない。

でも我が家の子供に関して言えば、モンテッソーリ教育で身についたことはたくさんあります。何をするかを自分で決めるので自発性が養われたこと、一人作業をコツコツすることで集中力がついたこと、などです。藤井さんのような天才ではなくても、子供のこうした変化が見られることはとても嬉しいです。

モンテッソーリ教育を受けた我が家の子供たちが大きくなって、どんな道で活躍するか？モンテッソーリ・キッズの親としては、ちょっと楽しみです。

### 筆者紹介

宮川良夫 (みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント  
1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。  
1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイビー特許業務法人を初めとして、世界7カ国(地域)にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子(孫?)育て。好きな言葉は「天地不仁」。